



楠本 美奈子さん

Kusumoto Minako

(岩下一区)

くすもと・みなこ / 3年ほど前から俳句を始める。5月に開催された第26回熊日俳句大会で、1,040句の中から最優秀賞にあたる「天賞」を受賞。

俳句を通して、甲佐の豊かな自然に改めて気付かされます

「まだまだ俳句を始めたばかりの初歩なので、自然の中で目に映る感動したものを、素直な気持ちで写生しています」と笑顔で話すのは、楠本美奈子さん。夫婦で営んでいた店をたたんだことをきっかけに、3年前か

ら夫婦で熊本市の句会に通って習い、詠み始めた俳句。以前から興味を持ってはいたが、「最初のころは何も分かっていなかったの、詠むことすべてが大変でした」と振り返り、「でも、急には上手くならない

し、自分ができるところから詠むというペース」で、俳句と向き合う毎日。
「今までは、散歩していても気が付かなかった甲佐町の豊かな自然や、きれいに手入れされているお庭の花などが見えてきます」と、普段の生活の中で、俳句を通して出会う素敵なことに胸を躍らせて詠み続けている。今では、どこかに出掛けるときにも、必ず思いついた句を書

き留めるための手帳を手にするほどに没頭。5月に開催された第26回熊日俳句大会で、最優秀賞にあたる「天賞」を受賞した句は、3月に阿蘇に出掛けたときのもの。

〈厩出(まやだ)しの牛根子岳に飛び上る〉

放牧される赤牛たちが、喜び勇んで春を迎える阿蘇の草原に向かう光景を目の当たりにして、ありのままに詠み上げた。

初めての大会への応募での受賞に、「こんなことになるとは思ってもしなかったの、びっくりした」と楠本さん。「出来上がったときは、そこまで良くは感じなかったが、宮崎県の口蹄疫(こうていえき)の問題などもあったので、熊本の牛たちが元気に育ってほしい」との願いを込めて、この句を選んだ。

俳句の魅力を、「楽しさ」と語る楠本さん。「なかなか上手く表現できないけれど、出来上がったときの楽しさに、いつも引き付けられます」とほほ笑む。「俳句は、普段の生活の中で、年を取っても長く向き合うことができます。これからも楽しんで詠み続けたいです」と語る。